新見公立大学　学報

まんさく

Niimi University

2023 | https://www.niimi-u.ac.jp

With/Post コロナ

Events and News
各学科での取り組み紹介

夢に向かって
活躍している学生たち

教員の活動紹介
地域福祉学科教授 髙杉公人

同窓会だより

卒業生・在学生近況報告

お知らせ
学術交流センター棟エレベーター増設

Vol. 64

With/Post コロナ

船川八幡宮御神幸武器行列(土下座祭り)に参加しました

新見は、元禄10(1697)年初代藩主関長治候が築いた町です。関長治候の新地入国時の大名行列に端を発する「御神幸武器行列」を沿道の人たちが土下座をして迎える「新見土下座まつり」は毎年10月15日に行われます。新型コロナウイルス感染症により２年連続中止になっていましたが、2022年10月15日に３年ぶりに開催されました。

前夜祭の「湯立ての神事」

湯立ての神事

2022年10月14日、船川八幡宮で行われた前夜祭の「湯立ての神事」には本学の学生30名が、アナウンス、かがり火、湯立てなどを担当するボランティアスタッフとして参加させていただきました。

お囃子隊

10月15日、きれいな秋空のもと「土下座まつり」が開催されました。祭りには、地域福祉学科２年生が地域文化実習の授業で「お囃子隊」として参加しました。地域文化実習では福祉実践において地域の生活文化を理解することを目的に開講され、お囃子や備中神楽を学んでいます。お囃子履修者は練習の成果を発表する場として、また備中神楽履修者は獅子頭等を持ちお囃子隊を支える立場として参加しました。

沿道から応援して下さった地域の皆さんから、「賑やかになってよかったね」「お囃子が一番！」などのお声かけも沢山いただきました。厄除けになるといわれる獅子も大人気だったようで、次々に「噛んでやって」という保護者の方々の声、おっかなびっくり噛む学生、それに続く子どもの泣き声とご家族の笑い声など、「ハレの日」らしい光景でした。

町内の神輿へ参加

ボランティアとして活躍

今年は子供武器行列や子供の樽神輿がありませんでしたが、地域共生推進センターからボランティアで参加した本学の学生たち67名も加わり、祭りの賑わいに華を添えました。

授業で参加した学生たちはもちろんのこと、ボランティアでの参加の学生たちにとっても、この経験は新見で過ごす４年間の中で印象的な思い出になると思います。また、将来福祉職・医療職として活躍する時には、地域理解や生活理解に役立つことと思います。３年ぶりの開催にご尽力された皆様方に心より感謝申し上げます。

地域福祉学科2年生のお囃子隊

地域活動が再びできるようになりました

にいみ ゆめのぽけっと 2023を開催しました！

今年度の「にいみ ゆめのぽけっと」では、健康保育学科の1～4年生約170名が一丸となって舞台発表や体験あそびコーナー、運営業務に取り組みました。特に今年は、来ていただく子どもたちの「育ち」や、子どもたちとの「双方向的なやりとり」を意識し、各演目・コーナーのねらいや内容について学生同士で話し合いを重ねました。また、会場内の安全性についても繰り返し検討し、環境整備を工夫しました。コロナ禍のため事前予約制とさせて頂きましたが、たくさんのご家族にご来場いただき、子どもたちの笑顔に触れることができました。

●舞台発表

舞台発表には開演直後からたくさんのお客様がご入場くださり、子どもたちと一緒にダンスや手あそび、歌を楽しむことができました。また、劇「赤ずきんちゃん」でもオオカミがおばあさんを食べようとする場面で子どもたちから声が上がるなど、子どもたちの率直な反応を目の当たりにしながら演じることができました。感染症対策に気を配りながらの練習は大変なこともありましたが、子どもたちの楽しそうな様子を見ることができ、学生たちは感無量の様子でした。

●体験あそびコーナー

あそびコーナーでは、プラネタリウム迷路やカルタにコマ、絵本、お絵描き、カプラなど、様々な種類の遊びを用意して子どもたちをお出迎えしました。寒天あそびのコーナーでは様々な色の寒天を用意し、子どもたちが自由に触ったり握ったり型抜きしたりして遊べるようにしました。子どもたちはプルプル、グニャグニャしたふしぎな触感を思う存分楽しんでいました。また、バルーンアートのコーナーでは犬や花を風船で作成し、子どもたちにプレゼントしました。

●安全にご利用いただくための環境づくり

会場内では子どもたちが安全に過ごせるように、躓きそうなところやぶつかりそうなところ、指を挟みそうなところを事前にチェックして対策しました。また、物の配置やお客様の動線を考え、空間を広く使えるよう工夫するとともに、「おやくそく」についてひらがなで書いた貼紙を用意したり、子どもと目線を合わせて説明したりするなど、怪我なく楽しく帰って頂けるよう心がけました。おかげさまで無事ゆめのぽけっとを終えることができ、学生たちもホッとしていました。

地域福祉学科

高尾学区市民文化祭

2022年11月6日㈰に、地域福祉学科1年生10名が高尾学区市民文化祭に参加しました。新型コロナウイルス感染症の蔓延により3年ぶりの開催となった今回の文化祭では、参加学生自らが「ボールあて」及び「じゃんけん大会」を企画・運営・実施し、高尾学区の様々な世代の方々との交流を楽しみました。

今回の基礎ゼミナールの活動では、高尾学区市民文化祭に参加させていただきました。私のグループではじゃんけん大会を行い、高尾学区の子どもたちとコミュニケーションをとりながら元気に楽しく盛り上がることができました。これからも新見市の人たちと関わりながら、大学で学んでいきたいです。

（地域福祉学科１年　浅越 柊汰）

看護学科

卒業研究発表会

2022年10月21日に10期生による卒業研究発表会が開催されました。グループ研究に変更して初めての発表となりました。３年次から領域実習と並行して、看護の疑問を探求し、各ゼミ教員に指導をいただきながらグループメンバーと協力して２年間頑張りました。当日は、研究の成果を各会場に分かれて口頭発表し積極的な質疑応答が交わされ、有意義な発表会となりました。この経験が今後、看護の発展のために活かされることを期待しています。

健康保育学科

保育・教育の実践力を高める地域での農業体験

2022年10月15日に健康保育学科２年生が芋ほりと焼き芋を行いました。

この取り組みは、前身の新見公立短期大学（2006年）から続いている行事です。本学は新見市哲西町の農業者の垰（たわ）さんの畑をお借りして、サツマイモの栽培を行っています。学生は垰さんの指導のもと、畑を耕し、苗を植え、育て、収穫し、食すという一連の農業体験をしています。

お芋が見えた時の喜びをかみしめながら，丁寧に収穫していきます

サツマイモ栽培をとおして学生は、作物を育てることの喜びや大変さを感じるとともに、自然の大きさや美しさ、不思議さを感じています。時には土の中からカエルやトカゲが出てきたり突然雨が降ったりと予想外の出来事が起き、戸惑ったり喜んだりすることもありますが、これらの経験も保育・教育の実践力の養成につながっています。

地域の方のご指導で，たくさんのお芋が収穫できました

健康保育学科

人形劇の鑑賞

2022年８月３日㈬、岡山県倉敷市にあるプロの人形劇団「とらまる人形劇団」に来学いただき、人形劇「ごめんね、シロ」（丹後地方の民話より）を上演していただきました。「保育内容「表現」（身体表現）」の授業の一環として、健康保育学科１年生全員と２～４年生の希望者が鑑賞しました。ゲームやアニメ鑑賞などが、子どもの遊びを占めつつある現代、学生たちは、こうした生の舞台が、子どもたちの想像力の育成や、心の成長に大きな役割を果たすことを学ぶことができました。

人形劇を見る学生たち

バックステージツアー（舞台裏見学）。人形や小道具に触らせていただきました。

地域福祉学科

新見ライオンズクラブ認証65周年記念大会で備中神楽を披露

2022年10月23日㈰、新見ライオンズクラブ認証65周年記念大会が新見商工会館５階大ホールにおいて盛大に挙行されました。この記念式典に続く祝宴において、地域福祉学科３年生で昨年度の地域文化実習の授業で備中神楽選択者のうち４名が備中神楽唐松社の副社長で本学非常勤講師の池田利文先生協力・指導のもと、「榊舞」と「事代主命舞」の２演目を舞わせていただきました。演技後、会場から拍手喝さいをいただきました。

看護学科

看護学セミナー

看護学セミナーは、戴帽式を継承し、学生が主体的に看護学について深く考える機会として、１・２年生の看護学セミナー委員が中心となり企画運営を行っています。

令和４年度は、「専門性を極めた看護職から学ぶ」をテーマに、保健師、集中ケア認定看護師、訪問看護認定看護師の３名の講師をお招きし、ご講演いただきました。実際の活動内容ややりがいについて具体的にお話しくださり、学生たちは看護学の視野が広がり、自身の将来のキャリアアップについても考える機会となりました。

大学院看護学研究科

中間発表会

看護学研究科は、2022年９月６日㈫に学内において「修士論文 中間発表会」を開催しました。

中間発表会は、研究背景、研究目的、研究方法、研究結果、考察までの一連のプロセスを発表し、研究に関する指導・助言を受け、今後の修士論文作成に活かすことを目的としています。今年度は、修了を目指す院生２人が発表しました。各教員より様々な角度から質問や意見をいただき、新たな視点を得ることが出来ました。12月末の修士論文提出、１月の修士論文審査合格、２月の公開発表会を経て修了となります。

地域福祉学科

2022年度　社会福祉士実習報告会

2022年12月20日㈫に社会福祉士実習報告会が開催されました。夏に実施した社会福祉士実習で解決できなかった課題やテーマについて、事後指導で学び直したものを実習生がグループでまとめて発表しました。22人の実習先指導者の方も遠隔で参加して頂き、実習生に温かいコメントやエールを送って頂きました。実習生は、地域共生社会に貢献できる実践力のある社会福祉士を目指して、力強い第一歩を踏み出しました。

健康保育学科

先輩と語る会を開催しました！

３年生を対象に、「保育専門職として働くこと」について具体的に思い描くことを目的として、現職の保育者から話をうかがう「先輩と語る会」を開催しました。

今年度は、公立保育所の保育士、児童養護施設の施設保育士（いずれも卒業生）、認定こども園の園長先生の計３名を講師としてお迎えしました。

この会を通して学生は、就職への具体的な道のりを知るとともに、自分が将来どこでどうありたいかというキャリア形成を深く考えることができました。

看護学科

養護教諭養成課程　養護実習報告会

養護教諭養成課程１期生８名が新見市内の小・中学校各２週間の養護実習を終えました。新見市教育委員会、各実習校の校長先生をはじめ養護教諭の先生方、他の教職員の皆様の熱心なご指導のもと、有意義な実習となりました。2022年10月28日に実習報告会を開催し、実習校の校長先生や養護教諭の先生、学科内の先生方が参加してくださり、多くの指導助言をいただきました。また来年度養護実習に向かう３年生も参加し、後輩に学びをつなげる機会になりました。

*左端が筆者

経験は私の未来

安達　希（健康保育学科3年）

私が初めてボランティアに参加したのは、大学１年生の２月、大学と保育現場をオンラインで繋ぎ、歌やダンス、楽器演奏を行って子ども達と一緒に楽しむというものでした。オンラインによる子ども達の表情の見えにくさはありましたが、子ども達の楽しそうな声を聞くこともでき、とても元気をもらえたボランティアでした。これをきっかけに、様々なボランティアに参加するようになりました。

大学２年生の９月、私はNiU新見駅西サテライトの空間づくりの活動に参加しました。そこでは、主にこども交流広場「ひだまり」の空間づくりに参加し、本棚や柱のデザインを作って提出しました。すると、そのデザインが通り、紙の中の絵が現実の世界に飛び出してきました。完成した本棚と柱を実際に見た時、「こういうの、いいな～」というモノづくりの楽しさと今まで感じたことのない「もっとやってみたい！」という気持ちを抱きました。それから私は子どもが過ごす空間づくりに興味をもち、そのような職業も視野に入れ、将来の道を模索しています。

このように未知の世界に飛び込む経験は、良いことも嫌なことも含め、私を初めてに出会わせてくれます。これからの人生でどんな初めての経験が待っているのか、とても楽しみです！

夢に向かって

御殿町でまちおこし

山下　真依（地域福祉学科３年）

私達「コンコンイルズ」は歴史ある太池邸で10月22日に学生Caféを開催しました。そもそもコンコンイルズという名前は、元々の部員が00年生まれと01年生まれだったので合わせて韓国読みをして出来たものになります。メニューの考案や試作、広報、接客を全て学生で１から考え行いました。ですので納得のいく味や見た目に辿り着くまでが大変でした。また多くの人にこの活動を知ってもらうための広報活動も大変でした。しかし当日は予想を遥かに上回る多くのお客さんが来てくださいました。太池邸の雰囲気や自分たちの作るデザートや飲み物を楽しんでいただけて嬉しく思います。2023年１月28日 は 第２回を実施し、３月の新見ひなめぐりの行事に合わせて第３回を実施する予定です。これからも頂いたお声を参考にしながら御殿町を盛り上げて行きたいと思います。

この先生に聞きました

中山間地における地域福祉の「見える化」を目指した教育実践・研究の紹介

地域福祉学科 教授　髙杉　公人

私は、2021年４月から本学の地域福祉学科の教授として赴任致しました。専門は社会福祉学における地域福祉領域です。特に四国をフィールドに様々な地域福祉実践に関わって、そこで起こっている現象を研究・評価して実践の改善につなげる「アクション・リサーチ」のスタンスを大事にしてきました。それは私の研究者としてだけではなく、教育者としての立場も同様で、学生を積極的に私が関わるフィールドに連れて行き、地域住民の方々と触れ合いながら、その方々の抱える生活課題を把握し、その改善方策を提案して実践・評価に移す教育的な取組を行ってきました。

本学に赴任して以降もこれらの経験を活かして教育・研究活動を行っていますが、現在特に興味を持っているのが、中山間地における地域福祉の「見える化」です。地域福祉はよく「見えにくい活動」と言われることがあります。そもそも地域福祉とは、「地域に暮らすすべての人々が幸せに暮らせるように努めること」であり、高齢や、障害その他様々な生活課題を抱えて福祉サービスが必要になっても、家族、友人や近隣住民との関係を保ち、誰もが生きがいを持って自立した生活が送れるような地域社会をつくることです。その基礎となるのは、住民同士の「見守り・つながり・支え合い」です。これらの活動に派手さは無く、報道媒体も取り上げてくれることは多くありません。中山間地域でも地域福祉は住民の生活基盤を支える非常に重要なものなのですが、「町おこし」や「地域振興」の取組にスポットライトが当てられる一方で、なかなか日の目を見ることはありません。だからこそ私は、中山間地において地域福祉の活動の重要性をできるだけ分かり易く多くの人々に伝え、その重要性を認識してもらうことで互助・共助の地域づくりを目指した教育実践・研究活動を行っています。今回はその中で代表的な活動を紹介させて頂きます。

教育実践活動：「地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」の助成を受けた津山市上加茂地区での活動

私の専門ゼミでは、岡山県庁中山間・地域振興課の「地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」の助成を受けて、津山市上加茂地区で「アクション・リサーチ」として実践と研究を融合させた取組を行っています。学生は上加茂地区での地域活動に携わることで地域アセスメント能力を高め、取組を企画・実施・評価することで調査能力を高めて、卒業研究のテーマをブラッシュアップしています。

具体的には、上加茂地区で既に行われている地域活動（稲刈り等）に参加しながら直接地域の方々にインタビューして地域ニーズ把握を行いました。そして地域ニーズと、学生が興味を持つ福祉的な視点とをマッチングさせて、二つの取組を行いました。いずれの取組も、地域の方々からフィードバックを頂いて評価を行い、その結果の反省を活かして実践の改良につなげています。

一つは、上加茂地区で土砂災害等の発生が危惧される際に、一人で避難できない「避難時要支援者」とご近所に住む「支援できる方」をつないで、避難支援を地図上でシミュレーションする「災害図上訓練（DIG）」です。上加茂地区の白地図を用意して、地区の人々に集まってもらい、要支援者に赤シール、支援が出来る人に青シールを貼って、赤シールと青シールを線でつないで避難支援を地図上で「見える化」しました。

もう一つは、地域のシンボルとなるものを学生と上加茂地区の人々が作り上げる「コミュニティ・デザイン」の活動です。上加茂地区には、人が集まるようなシンボルとなるものが無いことから、地域に多くある空き地を利用してそこにシンボルとなる「ベンチ」を作るというものです。今年度は干支に沿った「兎のベンチ」を作ることになりました。デザイナーの方に兎のベンチをデザインして頂き、そのデザインに沿って業者の方に設計図の作成を依頼し、あとは学生と地区の方々がDIYでベンチを作りました。ベンチを作ることが主目的では無く、ベンチを媒介して今までつながりが無かった様々な方々とのネットワークづくりを行うことに重きを置きました。次年度以降も、干支に沿ったベンチを作る予定です。

研究活動：社会福祉施設による地域における公益的な取組に対する資源マネジメントの効果に関する研究

2018年の社会福祉法改正によって会福祉法人の「地域における公益的な取組」が責務化され、法人が地域課題に対する取組を行うことが法制度化されました。その結果、法人は「地域における公益的な取組」として自らが有する専門性を発揮し、地域住民だけでは解決できない複雑化・複合化した課題の解決を行い「地域共生社会」の実現を推進する役割を果たすことが求められるようになりました。

「地域における公益的な取組」が責務化されて3年程度が経過し、徐々に取組は進んでいますが、施設・設備の開放や夏祭りの実施等の「部分的な地域貢献」に留まっている現状があります。この現状を打破するために私が導き出した仮説は、地域ニーズに対して施設や地域が持ち合わせているヒト、モノ、カネ等の社会資源を適正に活用するマネジメント力を発揮する「資源マネジメント」が必要であるというものです。「資源マネジメント」は、社会福祉法人が運営する施設が持つ「内的資源」と、地域に潜む「外的資源」を施設職員がコーディネート能力を発揮し、施設の代表者が集まる「協働の場」において効果的・効率的に資源を活用して「地域における公益的な取組」の創造を示すものです。

施設職員に対するインタビュー調査の結果、「資源マネジメント」は施設内の資源活用・調整・開発に関する「組織内マネジメント」、地域の資源活用・調整・開発を表す「組織外マネジメント」、地域における公益的な取組を「プロジェクトマネジメント」、様々な活動主体を集めて取組の促進を図る「協働の場のマネジメント」がその構成要素となり、これら４つが相互作用しながら地域ニーズの解決に向けた地域における公益的な取組を促進するとの結果が導き出されました。

現在、この資源マネジメントの効果に関する質問紙調査を行っています。従属変数である「地域における公益的な取組の推進」の度合いについて指標化した質問項目を設定して、取組に主として関わる職員によって、取組の推進にはヒト、モノ、カネといった資源の活用・調整・開発を行う力がどのように影響しているかについて量的な分析を実施しております。

これらの研究は愛媛県社会福祉法人経営者協議会と共同で行っており、研究結果に基づいて、研修会を実施して施設にフィードバックを行う計画が進んでいます。

新見公立大学健康科学部は韓国延世大学保健行政学部と学部間学術交流協定を締結しました。

2022年10月28日に新見公立大学健康科学部は、韓国の延世大学保健行政学部と「学術交流および研究成果の共有を目的とする」学部間学術交流協定を締結しました。

日本と韓国は急速に少子高齢化が進んでおり、それに伴って生じる高齢者の介護問題など抱えている社会問題の多くが共通しています。そうした社会背景の中で、日本は地域包括ケアシステムの推進等で先進的な取組をしており、また、本学は保健医療福祉の専門職を育成しています。他方で、延世大学では、国レベルのビッグデータを用いた医療や福祉の政策研究を行い、学部や大学院では保健医療分野の行政機関の高度人材育成を行っています。

締結式当日は、延世大学大学院保健政策および管理学専攻主任教授のソ・ヨンジュン教授とユ・ギボン保健行政学部長が本学に来校され、今後進めていく交流内容（協定内容）について両校間で確認しました。

その内容は主に以下の３点です。

⑴学術セミナーの共同開催

⑵教員，大学院生・学部生の相互交流

⑶日韓における保健医療福祉や地域包括ケア関連の動向に関する情報交換や現地学習

本学から延世大学へは、2023年３月に地域福祉学科の鄭丞媛ゼミの３年生６名が相互交流の「先発隊」として延世大学と韓国健康保険公団を訪問し、延世大学の学生らと一緒に韓国の医療制度や介護保険制度等について英語や韓国語で講義を受ける予定です。来年度以降、学術セミナーの開催や教員や学生間の相互交流等の本格的実施を予定しております。

同窓会だより

同窓生の近況を報告します。

幼児教育学科24期生 オンライン同窓会

2022年10月８日、幼児教育学科24期生はオンライン同窓会をしました。

みんな子育て中ということもあり、参加人数は少なかったですが、15年ぶりに会う人もいたり、今の立場ならではの悩みを話したりして有意義な同窓会になりました。今後もまた続けていきたいと思います

社会福祉法人恵聖会　玉島学園
藤本 淑美（幼児教育学科32期生）

私が児童養護施設で働き始めて10年が経とうとしています。主な仕事内容は、施設に入所している子ども達の生活全般を支援することです。今でもまだまだ自分の不甲斐なさを痛感させられますが、仕事をしていく中で、私自身、子どもの成長を間近で感じ、一番近い存在で子どもを養育していくこの仕事に誇りを持つことができるようになってきて、充実感のある日々を送っています。これからも子どもの気持ちに寄り添い、子どもから信頼される施設職員になれるように頑張っていきたいです。

日本大学医学部附属板橋病院
久齋 奏流（大学看護学科８期生／助産学専攻科7期生）

助産学専攻科修了生の久齋です。私は今、東京の大学病院で助産師として勤務しています。私の勤務する病院はスーパー母体救命指定病院で、妊産褥婦の最後の砦として重症な患者さんを受け入れています。正常な妊娠から、合併症のある方、ハイリスク妊婦など様々で、勉強の毎日を過ごしています。新見公立大学の助産学専攻科では妊娠期から１ヵ月検診までの継続した関わりを学ぶことができ、現在の病棟勤務で長期入院をされている患者さんへのケアに役立てています。

卒業生たちが遊びに来ました

卒業生・在学生近況報告

2名の卒業生がカナダブリティッシュコロンビア州で活躍中

別宮 有紀 (幼児教育学科34期生)

卒業後、保育の仕事をする中で、海外出身の保護者やお子さんと関わる機会に恵まれました。文化の違いに戸惑うと同時に、面白い！と興味を抱く日々でした。新たな価値観や考え方を、実際に肌で感じた、在学中のオーストラリアでの経験は、海外出身者への理解をスムーズにするとともに、海外の幼児教育に興味を抱くきっかけの１つになっていました。渡航後３ヶ月経過し、語学学校卒業を目前にした現在、素敵なホストファミリーや友達、先生と出会い、充実した日々を過ごしています。今後、ボランティアを経験した後、保育現場に挑戦しようと思っています。

藤森 知里 (幼児教育学科37期生)

私は短大卒業の年に、約２週間オーストラリアに保育ボランティアに行きました。友人と２人で緊張しながら行ったのですが、最終日には帰りたくないと思えるほど充実した時間だったことを今でも覚えています。卒業後、日本の園で４年間働く中で、たくさんの可愛い子どもたちと尊敬する先生と出会いました。しかし、やはりもう一度、今度は保育士として海外で”働きたい”と思い、昨年、カナダに渡航しました。BC州は日本の保育資格を書き換えることができるため、現在その制度を利用し、カナダで保育をしています。文化や言葉の違いで戸惑うこともたくさんありますが、毎日充実した日々を過ごしています。

備前焼小町として活躍

髙見 柚月 (地域福祉学科2年)

こんにちは、髙見柚月です。私は2022年の春から、備前焼小町として活動しています。備前焼小町の活動では主に、備前焼や備前焼まつりのPR活動を行っております。去年は東京、大阪、名古屋をはじめとした全国でラジオやテレビ、取材を通して備前焼のPRを行いました。

人間国宝の作家さんや、備前焼陶友会の方々にもお世話になり、備前焼の魅力を自分の言葉で伝えることができました。

また、備前焼小町は現在３人でとっても楽しく活動しております！年齢や大学も違う２人と出会えて、様々な経験や考え方に触れることができ、感謝しています。

学生時代には、挑戦することで様々な出会いと経験の機会があると思います。興味がある方がおられましたら今年度のご応募、ぜひお待ちしております！

新見公立大学 学報

まんさく

2023年2月号
Vol.64

編集後記

連日寒い日が続き、新見では雪が舞う季節となりました。この編集後記を書いている1月末は「10年に1度の寒波」ということで新見市内にも積雪があり、県北の寒さの洗礼を受けつつも、にこたんの皆さまや学生が作った雪だるまを見て気持ちがほっこり温かくなるのも感じます。

今号では3年ぶりに開催された土下座祭りや学生が太池邸で開催した町おこしサークルによるコンコンイルズカフェ、NiU新見駅西サテライトの空間づくりに参画した学生などの記事が集まり、少しずつコロナ禍を克服し、学生たちが地域で学び、地域で活動するような機会が増えたように思います。また、韓国・延世大学保健行政学部との学部間学術協定の締結など、国際的な新たな繋がりも築かれています。

さて、この3月には2019年に健康保育学科と地域福祉学科が四年制となり、「新・健康科学部」として完全四大化してからの1期生が本学を卒業します。同じく2019年に着任した私としても感慨深いものがあります。卒業する学生たちが歴代の先輩方に続き、地域の様々な分野で力を発揮されることを心から応援しています。

また、2023年4月からは看護学専攻（博士後期課程）および地域福祉学専攻（修士課程）もいよいよ開始します。着実に進化を続ける新見公立大学をどうぞ今後とも温かい目で応援していただけたらと思います。（高橋）

発刊

新見公立大学
〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2
TEL.0867-72-0634
FAX.0867-72-1492
URL：https://www.niimi-u.ac.jp/

編集

広報委員会

広報部長
三上　ゆみ

広報委員（50音順）
安藤　亮　石田真裕子　礒本　暁子
入江　慶太　高杉　公人　高橋　彩
長崎恵美子　柳迫　三寛　山内　圭
山根　智幸

学術交流センターのエレベーターがより使いやすくなりました。

今秋、学術交流センターのエレベーターを１号館４階にアクセスできるよう増築し、便利になりました。工事期間は2022年４月13日～10月26日で、杉岡建設㈱様に施工いただき、2022年10月31日より使用が開始されました。また、今回の工事で１号館３階のコンピューター室を改修し廊下を設置しました。このことによりエレベーターを使用することで１号館の１階から４階まですべてのフロアで車いすの使用も可能となりました。

今後、多様化する学生ニーズに対応するため、バリアフリー化を実現しました。

退任のご挨拶

髙月　教惠 先生　健康保育学科

平成6年に新見女子短大に着任し、平成19年10月に福山に異動し、平成29年4月に再び新見に戻り、4年制化の準備・開学科（健康保育）に関わらせていただきました。充実した日々でした。益々のご発展を祈ります。

岡　京子 先生　地域福祉学科

10年間を新見で過ごさせていただきました。新見の思い出は、清冽な水の流れとともにあります。大学では介護の奥深さや面白さを確認し、現場への憧れが募りました。今後は地元でできることを楽しみながら続けていく所存です。皆様のご健康とご多幸をお祈りしております。

八重樫　牧子 先生　地域福祉学科

この4年間、皆様のご指導やご厚情を賜りましたこと心よりお礼申し上げます。26歳で大学助手としてスタートし、非常勤講師を含めほぼ半世紀、大学教育研究に携わることができましたことに感謝しております。

小山　正善 先生　地域福祉学科

教員生活最後の４年間を本学で送ることができ、幸せでした。穏やかでアットホームな環境は、高い比率の女性教員と女子学生の存在に負うところが大だと思います。このメリットを活かし、充実の学園となるようお祈りします。

松本　好生 先生　健康保育学科

４年制大学１期生と共に赴任し、発達障害や特別支援教育を担当させていただきました。誰に出会うかで人生が変わると言われています。４年間、そっと育てた専門職の芽が、それぞれの現場で大輪の花になることを期待しています。

和田　美智代 先生　地域福祉学科

豊かな自然のなかで、何事にも誠実に頑張る学生に恵まれた幸せな4年間でした。笑いの要素を身に付ければ強みになるとゼミ生に川柳創作を課していましたが、新見市の大賞・優秀賞を受賞できたことは大きな喜びです。